

彙報

昭和40年度の実践禅学は左の如く開講されました。

提唱 六祖出経 学長山田無文老師

なお、摂心会は6月28日(月)より30日(水)までの3日間と、11月25日(木)より27日(土)までの3日間の両回、妙心寺法堂および山内靈雲院において行なった。

昭和40年度花園大学仏教学部開講科目

および講義題目

○一般教育科目

(区分) (講座名) (担当社) (単位)  
 人文 宗 教 学 稲 岡 四

西 洋 哲 学 史 東 四

倫 理 学 東 四

東 洋 文 学 (一) 太 田 二

東 洋 文 学 (二) 福 嶋 二

東 洋 文 学 (三) 福 嶋 二

社 会 学 稻 岡 四

法 学 松 本 四

經 济 学 高 橋 四

自 然 科 学 概 論 山 内 四

生 物 学 山 内 四

外国語

英 語 (一) 川 村 二

英 語 (二) 川 村 二

英 語 (三) 川 村 二

英 語 (四) 川 村 二

英 語 (五) 川 村 二

英 語 (六) 川 村 二

英 語 (七) 川 村 二

英 語 (八) 川 村 二

ドイッ語(初) 橋 本 二

ドイッ語(中) 橋 本 二

中 国 語 (初) 太 田 二

中 国 語 (中) 太 田 二

体 育 理 論 山 田 二

体 育 実 技 清 水 二

○専門科目

仏教学科

概 論 石 川 四

理 論 藤 吉 四

概 論 石 川 四

実 践 市 川 四

特殊研究および講読 伊 藤 四

地 学 桑 原 四

数 学 富 田 四

英 語 (一) 川 村 二

英 語 (二) 川 村 二

英 語 (三) 川 村 二

英 語 (四) 川 村 二

英 語 (五) 川 村 二

英 語 (六) 川 村 二

英 語 (七) 川 村 二

英 語 (八) 川 村 二

ドイッ語(初) 橋 本 二

ドイッ語(中) 橋 本 二

中 国 語 (初) 太 田 二

中 国 語 (中) 太 田 二

体 育 理 論 山 田 二

体 育 実 技 清 水 二

○専門科目

仏教学科

概 論 石 川 四

理 論 藤 吉 四

概 論 石 川 四

実 践 市 川 四

特殊研究および講読 伊 藤 四

浄土教学 藤 原 四

原始仏教学 西 原 四

印度大乘の思想 藤 吉 四

大乘玄論 柳 田 四

中 觀 仏 教 高 崎 四

梵 語 高 崎 四

概 論 平 田 四

原 理 柳 田 四

実 践 柳 田 四

法 儀 実 習 森 弘 二

布 教 実 習 池 田 二

仏 教 聖 歌 城 下 二

特殊研究および講読

禅 林 句 集 木 村 四

景 徳 伝 灯 録 柳 田 四

臨 済 の 思 想 平 田 四

頓 語 要 門 平 田 四

碧 巖 録 大 井 四

仏教史学

(日本仏教史) 概 要 荻 須 四

中国禅宗史 荻 須 四

日本禅宗史 荻 須 四

特殊研究および講読

仏教福祉学科

五山文学	福嶋	四	公的扶助および児童福祉法	西原	四
仏教美術史	森暢	四	社会福祉事業史	西原	四
中国仏教史	大石	四	仏教学概論	石川	四
かな法語	大石	四	禅学概論	平田	四
三國縁起法	大石	四	倫理学	東田	四
近世の禅宗	荻須	四	選択科目		
(禅哲と共通)			図書館学	石川	四
印度仏教史	高崎	四	仏教史概要	荻須	四
選択科目			教職課程		
宗教学	阿部	四	青年心理学	長尾	二
哲学概論	三村	四	教育心理学	長尾	二
哲学	三村	四	教育原理	山口	四
東洋哲学史	福嶋	四	社会科教育法	味岡	四
倫理学	東井	四	宗教科教育法	池田	四
日本史	桜井	四	道徳教育の研究	山口	四
外国史	金子	四	教育社会学	味岡	四
地誌学	桑原	四	教育実習	味岡	三
政治学	松本	四			
社会思想史	高橋	四			
宗教学	稲岡	四			
経済学	高橋	四			
人文地理学	桑原	四			
公衆衛生学	山田重	二			
社会福祉概論	西原	四			

病氣にて入院加療中であつたが八月二十四日逝去された。ためにその後任として六月一日より桜井景雄講師(兼)が就任された。華嚴教学・六祖坦経(休講)担当の文学

博士今津洪嶽教授が10月31日遷化された。

昭和39年度卒業論文題目

仏教学専攻

江戶時代における三教思想について	乾 正之
布施と方便	遠藤 玄昌
大乘成業論の研究	大崎 昭子
阿毘達磨における輪廻について	岡 功
涅槃經に現れた仏性説について	小笠原宏道
天台思想と祖師禅	片岡 孝治
肇論の研究	小牧 浩哉
禅病について	田中 義晃
布施について	辻 洪基
戒律について	東海 文省
原始僧伽に於ける食生活	馬場 岩甫
阿含經典に見える無明について	藤田 義光
禅と墨蹟	横田 宗忠
阿毘達磨における我について	善国 乘慈
中辺分別論に於ける縁起説の展開	
出家菩薩の考察	蛭子 政弘
中華伝心地禅門師資承襲図	片岡 義泰
永平初祖学道用心集の研究	唐木 正紀

- 一心戒の研究 小倉 洋康
- 百丈禪師の思想について 張 麗枝
- 現代抽象面と禅画 筒井 祖晋
- 興禅護国論より見た柴西禪師の思想 永戸 賢樹
- 生死について 荳村 郁生
- 教外別伝の思想について 福郷 博厚
- 修心要論の研究 古田 正道
- 一休和尚に見られる禅 堀内 正則
- 禅戒について 微笑 忠雄
- 東嶺の実験論 嶺 道隆
- 南嶺懷讓禪師の思想について 王 綉蓮
- 仏教史学専攻
- 月庵宗光の研究 伊賀良昌太郎
- 我国庶民の観音信仰について 井上 圭三
- 永平正法眼蔵における臨済宗批判について 今杉 昭俊
- 円空上人の一考察 板津 修
- 中峰明本の研究 片山 秀光
- 楊岐方会禪師の研究 桂田 文隆
- 北海道における禅宗の伝播 権藤 定武
- 塩山仮名法語の研究 杉浦 敏夫
- 行基菩薩の研究 芝原 二六
- 明叔慶俊禪師の研究 中島 英正
- 東山法門の歴史的意義 野田 吉穂
- 禅宗伝来に於ける伽藍構成 法山 高演

- 会昌の廃仏と禅宗 橋本 宗一
- 白隠の仮名法語について 藤井 晋
- 石仏と奈良 藤井 是彦
- 兀庵普寧の研究 森 宗柏
- 大愚宗築禪師の研究 山内 義宣
- 昭和40年9月卒業 義清
- 三祖僧璨の禅風 鷲

### 学術講演会

5月25日 創立記念祭に「ヒューマニズムの現代的意義」と題して早稲田大学教授 原一郎氏の特別講演が行なわれた。

6月12日 「東南アジアの宗教事情について」と題して本学兼任講師藤吉慈海氏の特  
別講演が行なわれた。

6月14日 欧米を巡錫されこのたび無事  
帰朝された南禅寺派管長柴山全慶親下の特  
別記念講演会が開かれた。

### 夏期禅学公開講座

花園大学と禅文化研究所共催で7月10日  
から12日までの三日間本学図書館三階小講  
堂において毎日午後六時半より九時まで開  
かれた。講座題名及び講師は左の通りであ

る。

- 提唱 臨済録新講 山田無文老師
- 如来禅と祖师禅 秋月 竜珉氏
- 禅における人格形成 片岡 仁志氏
- 南方に於ける仏教 藤吉 慈海氏

### 学 会

昭和四十年年度中に開催された諸学会にお  
ける本学関係の発表者およびテーマは左の  
通りである。

日本印度学仏教学会大会 5月29・30日  
於駒沢大学

宋代禅の影響と日本文化

荻須 純道教授

六祖壇経の作者

柳田 聖山教授

虎関師錬の紙衣騰について

大石守雄助教授

グンデルト教授「文殊前三三後三三」

に対する疑義について 平田高士助教授

唐蕃会盟碑のチベット文について

高崎 正芳講師

タイ、ビルマにおける瞑想法について

藤吉 慈海講師

仏教文学研究会大会 6月20日 於京都

女子大学

蘇東坡の詩について 太田 進講師

日本仏教学会大会 10月23・24日 於花園大学

園大学

普通と特殊 大井 際断教授

仏教史学会大会 10月24日午後一時より

於花園大学

圭峯宗密の法系について

柳田 聖山教授

なお、昭和39年度禅学研究会発表大会は

昭和39年11月28日に、本学図書館三階小講

堂において開催された。研究発表者とその

テーマは左の通りである。

随自意三昧について

驚阪 宗演

禅録訳余滴

平田 高士

祖先崇拜の社会的基盤

福岡 順雄

宗教的生に於ける真理伝達の問題

西村 恵信

伝承資料による妙心寺派寺院成立史考

橘 菘堂

寒山詩の側面

太田 進

禅宗の地方伝播

大石 守雄

—大山の瑞泉寺住世簿について—

石川 良昱

禅と近世文学について

柳田 聖山

水墨画と朝鮮画の関係

興禅護国論について

近世墨蹟の特徴

禅籍翻訳に関する諸問題

普遍的苦惱

拔隊禅師の家風について

禅と日本文化の総合研究会(代表者荻須純道教授)は、昨昭和39年度に引きつゞき

本昭和40年度も、文部省科学研究費補助金

による総合研究に指定された。研究分担課

題および分担者は左の如くである。

日本の禅思想について(含総説)

日本仏教における禅について

日本禅宗に影響を与えた中国仏教につ

いて

日本の禅文化に与えた儒教の影響

五山文学について

武家文化と禅について

黄檗禅とその文化

無著道忠の学風について

日本近世の禅について

禅と近世文学の研究

森 暢

木村 静雄

横山 文綱

緒方 宗博

市川 白弦

荻須 純道

荻須 純道

宮崎 円遵

牧田 諦亮

久須本文雄

福嶋 俊翁

藤 直幹

古田 紹欽

柳田 聖山

木村 静雄

石川 良昱

石川 良昱

石川 良昱

石川 良昱

石川 良昱

石川 良昱

石川 良昱

石川 良昱

日本における禅の地方伝播

我が国における禅画について

禅僧の墨蹟について

禅と欧米文化

日本近世禅宗教団における民俗信仰について

仏教史学会

研究旅行

9月5日より三泊四日南紀伊

地方を見学した。主な見学地、由良興国

寺、田辺海蔵寺(泊)、勝浦海翁寺(泊)、那

賀青岸渡寺、山本玄峰老師出生地(湯峰温

泉あづまやにて泊) 指導大石助教。参加

学生十名。

荻須博士著書出版祝賀会 6月27日 荻

須純道博士著「日本中世禅宗史」(昭和四十

年五月三十日刊行)の出版記念祝賀会を仏

教史学会、禅文化研究所共催で花園会館に

おいて開いた。出席者は妙心寺派管長古川

大航院下、南禅寺派管長柴山全慶院下、竜

谷大学教授宮崎円遵博士、京都大学人文科

学研究所員牧田諦亮博士、荻須達子夫人な

どをはじめ、荻須博士に関係の深い学内外

の名士五十余人が列席した。

禅文化

第三十六号 昭和四十年三月

提唱 州勘庵主……………山田 無文

「寒山詩」私解(一)……………藤 俊翁

茶道における人間関係……………藤 直幹

中国の庭園……………村上 嘉実

現代人の精神的状況……………相原 信作

インドを語る(3)……………春日井真也

仏陀遺蹟の今と昔……………一色 利郷

香道史抄(二)……………荻須 純道

五家七宗(三)……………荻須 純道

禅宗秘話(一)……………桜井 景雄

禅宗興隆への抵抗……………桜井 景雄

わが道場 平林寺……………白水 敬山

大学の禅会……………堀 宗徳

学寮の接心……………堀 宗徳

茶隴山接心会と私……………早川 新吉

禅味のある俳句……………大山 澄太

禅文化

第三十七号 昭和四十年六月

提唱 一無位の真人……………山田 無文

「寒山詩」私解(二)……………山田 無文

提唱 一無位の真人……………山田 無文

臨濟禪師千百年に想う……………梶浦 逸外

竹田 益州 近藤 文光

村瀬 玄妙 陸川 堆雲

古田 紹欽 松倉 紹英

臨濟禪師伝……………陸川 堆雲

臨濟の思想……………柳田 聖山

臨濟義玄像図説……………竹内 尚次

寒山詩私解(三)……………福嶋 俊翁

禅俳僧虚白の生涯……………高橋 浩州

禅宗秘話(二)……………桜井 景雄

僧録の話……………中島 皓象

墨蹟と今日の書……………岩野 菊代

如是我聞……………緒方 宗博

英文禅籍管見……………加藤 隆芳

わが道場 瑞巖寺……………加藤 隆芳

大学の禅会……………中川 孝

東北東大坐禅会……………中川 孝

禅文化

第三十八号 昭和四十年九月

特集第二集

「提唱 四料棟……………山田 無文

集臨濟録を語る…鈴木 大拙・上田 閑照

特臨濟禪の将来……………大森 曹玄

「臨濟禪の解明……………久松 真一

「寒山詩」私解(四)……………福嶋 俊翁

五家七宗(四)

禅宗史話……………洞山良价禅師と曹洞宗

インドを語る……………春日井真也

仏陀遺蹟の今と昔(二)……………森本 省念

老婆心……………永島福太郎

臨濟禪師の茶道遺響……………通山 宗鶴

わが道場 円福寺……………文章

ブライスさんを偲ぶ……………文章

禅文化

第三十九号 昭和四十一年一月

提唱 無位の真人……………山田 無文

生きる神秘……………岡本 太郎

五家七宗(四)……………岡本 太郎

禅宗史話 法眼文益と法眼宗……………荻須 純道

中岩四月の二首……………土岐 善麿

「杜甫周辺記」のうち……………土岐 善麿

清見寺の陽春和尚(下)……………秋山 寛治

ぶつだ伝(一)……………春日井真也

「寒山詩」私解(四)……………福嶋 俊翁

無底老漢……………平野 宗円

禅宗秘話(四)……………平野 宗円

対州修文職について……………桜井 景雄

良哉禅師を尋ねて……………横山 文綱

苔寺春秋……………鳥越 杉雄

わが道場 永保寺……………三島 良純

栄西禅師と平戸……………山口 安雄